

『Across the Globe』『Going Global』が目指したもの

数研出版 英語編集部

1. 新たな読み物教材の発行にあたり

今春、『Across the Globe』『Going Global』という2点の新刊の読み物教材シリーズを発行することとなりました。本書の最大の特徴は、文科省から発表された「新テストにむけた評価すべき能力」(知識・技能+思考力・判断力・表現力)を意識した教材である、という点です。具体的には、①現代社会で議論となっている社会現象・出来事・人物を題材とした英文を読み、②それに対する自分の意見や考えを述べる活動を行い、③最終的には読者にグローバルな視点を培ってもらう—この3つを編集の「基本方針」としています。

題材につきましては、『Across the Globe』では8つのトピックを各見開き2ページで、『Going Global』では6つのトピックを各見開き4ページで扱っています。すべて本教材用にオリジナルで書き下ろされた英文ですが、今後私たちのライフ・スタイルに大きな影響を与えていくと思われるトピックをなるべく平易な英語でまとめています。これらの題材について授業中にお互いの意見を交換する活動を行うこともできますが、付属のワークブックに自分の意見・感想を答える演習問題を収録していますので、「自学自習用の読み物教材」として活用することもできます。

2. 英文作成で気づいたこと

本書のような全編オリジナルの英文書下ろしの読み物教材の編集では、「英文のクオリティー」が成否のカギを握っていると言えます。全体として筆者の主張は明確に言い表されているか、英語の論理構成に則って書かれているか、そして読んでみて実際に面白い文章になっているかといった点は言うまでもなく、使用されている単語・表現レベルがターゲット層に合っていることも重要です。

そのようなわけで、最終的に掲載する文章が完成

するまでには本文の検討・修正を何度も重ねています。そして、その推敲の過程で思わぬ発見をする場合もあります。

例えば『Going Global』の TOPIC 2 では、世界的に有名な英国人シェフのジェイミー・オリバーを扱っています。彼の子供の肥満問題への取り組みを紹介する記事の中で、fat と overweight と obese という形容詞が混在していましたが、英文監修者である T.D. Minton 教授 [慶應義塾大学] からこれらの語いを交換可能と考えてはいけないと指摘されました—世界保健機構(WHO)では BMI(肥満指数)が 25 ~ 29 を overweight と定義し、30 以上を obese と定義しているのです。

『Across the Globe』では、TOPIC 7 で日本の“convenience store”を扱っています。日本で「コンビニ」と言えば、全国津々浦々にありますが、ヨーロッパではコンビニに相当する店は少なく、365日、24時間営業の店はほとんどありません。これには宗教が深く関係しています。キリスト教では日曜日は安息日であり、教会にお祈りに行く日と考えられています。またドイツには「閉店法」という法律があり、平日であっても19時から20時に営業をやめる店が多いようです。本シリーズでは、このように日本の常識が海外で通用するとは限らないといったトピックもいくつか扱っています。

3. おわりに

弊社では『ROADHITTER』『EARTHLINER』という読み物シリーズを長らく発行してきました。今回はその伝統を生かしつつ、「アクティブ・ラーニング」の要素を前面に押し出した読み物教材となっています。本シリーズによって、生徒の皆さんの英語学習が知的な刺激と興奮に満ちたものになることを願ってやみません。

(数研出版 編集部)